

前月末の子どもの姿

低月齢児：いろいろな姿勢で探索活動をすることを喜ぶ。ずり這いからつかまり立ちをして楽しむが、バランスを崩すことがある。

中・高月齢児：寒さから体調を崩す子が多い。・両手をついて足から降りるなど、安全に行動できるようになるが、時々友だちとぶつかることがある。・いろいろな物や友だちに關心を示す。

ねらい：生活リズムを整え、健康に過ごす。・愛情あふれる環境で、保育者の優しい語りかけにより、応答したり言葉を発したりすることを楽しむ。・冬の自然に親しみ、丈夫な体をつくる。・安全で活動しやすい環境で、全身を使って遊ぶ。

安全・健康：室内はこまめに換気をし、快適な温度や室温を保つようにする。・外出時には、個々の健康状態や天候や気温に留意して、防寒着での調節を丁寧に行う。・誤飲防止のため、直径3.5センチ以下の物は置かない。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ●体調や活動に合わせて衣服を調節し、心地よく過ごす。 ●安心できる保育者の中で、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを持つ。 ●オムツが濡れていないときにオマルやトイレに行き、便器に座することに興味を持つ。 ○体調や活動に合わせて衣服を調節してもらい、心地よく過ごす ○食事、授乳後、顔や手を丁寧に拭いてもらい、清潔にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内はこまめに換気し、快適な湿度や室温を保つ。 ●おしぼり、ティッシュを大人がすぐに取り出せる位置に整え手や鼻水などをすぐに拭けるようにする。 ●排尿の時間を記録できるようにホワイトボードを準備する。 ●オマル・便器に子どもの好きな物の絵を貼るなどし、便器に座れたときはほめる。 ○室内は薄着で過ごせるように快適な室温を保ち、こまめに換気する。 ○おしぼり（ガーゼ）、ティッシュを大人がすぐに取り出せる場所に置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●○寒さや正月の疲れから、体調を崩す。 ●フォークやスプーンを自分で使ったり、手づかみで食べたりする。 ●鼻にティッシュを当てて、自分で拭こうとする。 ●オムツが濡れたら、言葉やしぐさで保育者に伝えようとする。 ●保育者と一緒にトイレに行き、便器に座ってみようとする。 ○元気に登園する。 ○保育者をじっと見ている。 ○鼻を拭かれることを嫌がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●○家庭としっかりと連絡を取り合い、体調管理に努める。 ●意欲や行動を大切に、「もぐもぐ」などの言葉を添え、咀嚼、嚥下の発達を促す。 ●身の回りのことに興味を持てるよう、保育者が手本を見せるなど、必要に応じて援助する。 ●個々の排尿の間隔を把握し、便器やオマルに座ることを少しずつ促す。 ○子どもたちが身の回りのことに興味を持てるよう、保育者が手本を示し、子どもの様子を見て必要に応じて言葉かけや援助する。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ●戸外に出て外気に触れ、体を動かして遊ぶ。 ●オムツが汚れたことを感じて、知らせる。 ●保育者や友達と一緒に、同じ遊びの雰囲気を楽しむ。 ●絵本を読んでもらうことを喜び、指差しをしたり言葉を話したりする。 ○登る、押す、引っ張るなど、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や友だちの存在に気付き、關心を持つ。 ○絵本を読んでもらうことを喜び、指差しや喃語を繰り返す。 ☆もぐもぐごっくんを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●下痢、嘔吐の汚物処理に必要なものを準備しておく。 ●少しずつ友達との関わりが楽しめるように、同じ手さげ袋や人形を複数用意し、子どもが数人一緒に座れるコーナーをつくる。 ●子どもの好きな絵本を揃え、自由に手に取れるところに置く。 ○十分に体を動かして遊べるよう、室内を工夫し、スペースを広くとる。 ○スキンシップをしながら触れ合い遊びをする。 ●○簡単な繰り返し言葉が入った絵本を準備する。 ○窓を開けて外気に触れてから、戸外へ出るようにする。 ☆体調を考慮し、個々の離乳の状態を把握して、中期、後期、完了期と進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「行こう」と、喜んで戸外遊びに出かける。 ●準備をしている友達や保育者に近づく。 ●オムツに触ったり、「チッチ」など言葉や表情で知らせたりする。 ●友達と遊んでいる様子をじっと見つめる。 ●「ねんね」「ばいばい」など保育者の言葉をまねて話す。 ○室内にある様々な玩具に興味を持ち、探索活動がますます盛んになる。 ○要求を喃語やしぐさ、片言で表そうとする。 ☆咀嚼と嚥下を繰り返しながら、食事形態を上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの様子を見て、危険のないようさり気なく援助し、遊びの楽しさを共有する。 ●排泄を伝えようとする表情やしぐさに気づき、知らせたことを認め、「チッチ出たね」など、言葉に置きかえる。 ●絵本の心地よい言葉のリズムを楽しみ、友達と楽しさを共有できるようにする。 ○子どもの思いを代弁し、言葉のやり取りの楽しさを知らせ、触れ合いを深める。 ○子どもの健康状態を把握し天候や時間を考慮して、外気に触れるようにする。 ☆好き嫌いが出てきたが、嫌いな物は食べる量を加減するなどの配慮をし、食べる喜びを味わわせる。 ☆スプーンやフォークなどの食具を使って自分で食事する姿を保育者に認められることで、自分で食事する喜びが味わえるようにする。

職員との連携：休みに生活リズムが乱れがちの子がいるので、一人一人の状態を保育者間で伝え合い、ゆったりと過ごせるようにする。・感染症が流行する時期でもあるので、手洗い、掃除、換気、加湿をしっかりと行う。

家庭との連携：・正月休みで生活リズムが乱れ、体調を崩しがちなので、子どもの様子について連絡を密に取る。・保護者の気持ちに寄り添いつつ、子どもの自我の芽生えを理解してもらい、十分に関わってもらえるようにする。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--